

茨城県ビルメンテナンス協会の会員様限定価格で、AIサーマルカメラのご案内です。

緊急事態宣言が解除され、施設利用が再開される中で、新型コロナウイルス感染対策に、施設利用者の発熱を検知するサーマルカメラの導入が進んでいます。

ご案内するサーマルカメラは、8インチ画面のタブレット型で、小～中規模施設にぴったりの機能と大きさになっています。

サーマルカメラの種類としては現在、バレット型、ドーム型、タブレット型、ハンディ型の4種類が出ています。バレット型、ドーム型は一度に20～30人を測定するなど高機能で高価なものとなっています。アイリスオーヤマでは、高機能のドーム型を定価90万円、手軽に持ち運びできるハンディ型を定価25万円で販売しています。またソフトバンク系列の日本コンピュータビジョンが、イオンモールにタブレット型をシステム込み60万円程度で納入しています。

(サーマルカメラの種類について詳しくは別紙1の「AIサーマルカメラの種類」をご参照下さい。)

茨城県内では、イオンモールにすでに導入されています。またニュースでご存知の方も多いかも知れませんが、韓国ではソウル市内の小中高の全校にサーマルカメラが導入されています。

(別紙2「サーマルカメラの導入例」をご参照下さい。)

弊社の指定管理者施設である「つくば市ふれあいプラザ」において6月から設置予定です。お近くで実物を試してみたいという方は日時を合わせてご覧いただくことができます。

工場など入場者を社員だけに制限している施設などの場合、顔認証機能を搭載させることが可能です。社員は面倒な検温と体温の記入を省略して、サーマルカメラに顔を写すだけで工場に入場することができます。その場合、顔認証機能アップグレード費用として追加で7万円かかります。

また、学校などの施設で生徒がカメラの前に立った時に、先生が少し離れたPCで体温を確認したいという場合、PC側にAIサーマルカメラ用のアプリケーションソフトを入れることとなりますので、ソフトの費用が1台当たり18万円追加でかかります。導入費用が2倍近くになりますが、韓国の学校のような高機能のカメラとシステムを導入すると最低でも100～150万円かかりますので、それと比べると半額以下で導入できることとなります。

小規模の公共施設では、このタブレット型のAIサーマルカメラだけ設置しておけば、利用者が発熱しているかどうか音声で知らせてくれるので、近くの職員がそれをチェックすればいいと思われま

す。この製品はオープン価格ですので、会員様限定価格でご購入いただき、上乘せして各社のお取引先に販売していただいて構いません。このタブレット型よりもグレードが下がるハンディ型がアイリスオーヤマで定価25万円ですので、大体22～27万円くらいが売れる価格帯だと思います。

お問い合わせは下記までお願いいたします。

常陸興業株式会社

TEL : 029-867-4218      FAX : 029-867-2269      Email : info@hitachikogyo.co.jp

担当 : 専務取締役 増田明一